

2026年3月23日

報道機関 各位

長崎大学の若手研究者 高島で“幻の高級魚”ヒラスズキの世界初完全養殖に挑戦

長崎大学海洋未来イノベーション機構では、高島水産研究所を拠点に、ブリをはじめとする6種類の魚種について、人工環境下で「親魚」→「卵」→「仔魚・稚魚」→「親魚」へと至る完全養殖の技術開発を進めています。その研究対象の魚種の一つがヒラスズキ (*Lateolabrax latus*) です。

ヒラスズキは、日本周辺海域のみに生息するスズキ属の魚で、最大1m・8kgサイズまで成長する大型魚です。近縁種のスズキ (*Lateolabrax japonicus*) は、北海道～九州の河口から沖合に広く分布し、定置網や旋網で大量に漁獲される白身の魚として親しまれているのに対し、ヒラスズキは主に黒潮がぶつかる、九州西岸、愛媛、高知、紀伊半島、伊豆諸島ならびに伊豆半島などの荒磯に生息します。激しい波が立つ岩礁帯の白泡の下に潜む性質から大量漁獲が難しく、ごく一部の釣り人や漁業者のみが知る「幻の魚」とも呼ばれています。食味にも優れ、弾力のある白身と強い旨みにより市場では高値で取引される高級魚です。



ヒラスズキ

【「ながさき BLUE エコノミー」プロジェクトとヒラスズキ】

長崎大学は科学技術振興機構 (JST) の「共創の場形成支援プログラム」(COI-NEXT) 事業の採択を受け、2023年度より、完全養殖を核として地域振興を目指す「ながさき BLUE エコノミー」プロジェクトを推進しています。本プロジェクトでは、2024年1月にその中核施設として高島水産研究所 (長崎市高島町) を設置し、地域との連携を強化してきました。研究所のある高島は、昔からヒラスズキの産地として盛んに漁業がおこなわれており、地元漁業者から「ヒラスズキは隠れた地域の逸品。養殖によって安定供給ができれば大きな産業になる」との強い期待が寄せられており、これを受けて完全養殖の研究が本格化しました。本プロジェクトでは、将来的には「長崎 (高島) でしか味わえないヒラスズキ」を新たな「長崎のじげもん (地元の物)」として発信できるよう養殖技術の確立を目指していきます。



ヒラスズキの卵



ヒラスズキの稚魚

【卵 28 万粒を確保し、成長過程の解明を目指す】

人工環境で魚を育てるには、まず親魚の確保が不可欠です。地元・西彼南部漁協高島支所の全面協力により、1月18日、31日に親魚7尾を入手し、合計28万粒の受精卵の確保に成功しました。卵は2日後には孵化し、現在は数センチに成長した稚魚が元気よく研究所内の水槽を泳いでいます。ヒラスズ

キは「いつ・どこで・どれくらい産卵するのか?」「卵や稚魚はどのように発育・成長するのか?」「最適な水温・光条件は?」「親魚になるまでに必要な期間はどれほどか」など、多くの点が未解明で謎の多い魚です。「卵」→「仔魚」→「稚魚」→「成魚」の過程を人工環境で明らかにする作業は、ヒラスズキを取り巻く多くの謎を科学的に解き明かしていく試みでもあります。

【完全養殖の達成は“世界初”を目指す挑戦】

ヒラスズキの完全養殖への挑戦は、20年ほど前に静岡県で3年間実施されましたが、未解明の要素が多く、完全養殖に至る前に中断されました。今回の取り組みは、ヒラスズキの主産地である高島に研究所があるという地理的メリットを最大限活かし、完全養殖にこれまでにない側面から取り組むものです。

新しい道を切り拓くには、斬新な発想とチャレンジ精神が不可欠です。高島水産研究所では、今回ご紹介したヒラスズキを含む6魚種の養殖技術開発を進めており、その中心を担うのは、海洋未来イノベーション機構の藤川 稔晃・山本 悠理、両名の特任研究員です。次世代を担う2名の若手研究者は水産学部の学生と協力しながら、水温、餌の与え方、光環境など、ヒラスズキの成長に最も適した条件を探るべく、日々、研究・技術開発を重ねています。



藤川 稔晃
特任研究員



山本 悠理
特任研究員

【完全養殖の達成に向けて】

「ながさき BLUE エコノミー」プロジェクトの若手研究者チームは、今回生まれたヒラスズキを親魚まで育て、その新魚から卵をとって再び子供を育てる、完全養殖を完成させるため、引き続き研究・技術開発に取り組んでいきます。今後も数多く残された未解明事項を順次明らかにして、都度内容を公開していく予定です。長崎大学発の新たな水産イノベーションに乞うご期待ください。

【参考情報】

- ・  [ながさきBLUEエコノミー](https://blueco.ciugc.nagasaki-u.ac.jp/)
<https://blueco.ciugc.nagasaki-u.ac.jp/>



- ・ [ながさき BLUE エコノミーでの研究課題と取り組みについて](https://choho.nagasaki-u.ac.jp/tag/blue/)
<https://choho.nagasaki-u.ac.jp/tag/blue/>



【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学海洋未来イノベーション機構
「ながさき BLUE エコノミー」高島水産研究所
教授 有瀧 真人 (アリタキ マサト)
TEL : 095-801-1925 E-mail: aritaki@nagasaki-u.ac.jp